読書力向上へ連携強化

東松島市図書館 小中学校教諭と協議

学校と図書館が連携強化のため話し合った

東松島市図書館（浅野健一館長）と学校図書室担当教諭の合同会議が1日、同館で開かれた。子どもの読書力向上のため、学級文庫の利用や読み聞かせボランティアの養成を通じて連携を深めていくことを確認した。

会議には、同館職員と市内小中学校の図書室担当教諭ら約20人が参加。読書普及に向けた各学校の現状を報告し、図書室の整備や学級文庫の利用の仕方を含めて今後の対応を話し合った。

朝読書は市内全校で実施されているが、毎日が3校、週に1回以上は9校とばらつきがあり、「図書に触れる機会には恵まれているが、古典など教員側が読んでほしい本に近づかない」「5、6年生になると読書量が減る」などと児童生徒の読書傾向なども報告された。

また、地域から読み聞かせ活動に取り組みたいという声が上がっている学校もあった。同館では読み聞かせボランティアグループおはなしのはなたばが小学校などで出前おはなし会を行っているが、全校を回りきれない現状にあり、同館は「地域に読み聞かせボランティアを育成したい」と提案。はなたばの会員が指導者となって絵本の読み方や選び方を教え、学校を巻き込んで全市的に取り組みたい考えを示した。